

# 動画撮影・動画配信用(オーディオインターフェースApollo X16簡単設定)

(レコーディング機材使用のためセルフレコーディング料金です。)

(難しいレコーディング用のDAWソフトは一切使いません。)

## [オーディオインターフェースの接続状況]

マイクプリ1ch~16ch ⇒ Apollo X16 INPUTS LINE1~16

\*マイクプリ16chだけコントロールルーム内(マイクプリの下)に入力端子

Apollo X16 OUTPUTS MON L&R ⇒ モニタースピーカーL&R(MONITOR)

Apollo X16 OUTPUTS LINE1&LINE2 ⇒ モニターヘッドフォンL&R(ALT1)

Apollo X16 OUTPUTS LINE3&LINE4 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用L&R

Apollo X16 OUTPUTS LINE5 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB1

Apollo X16 OUTPUTS LINE6 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB2

Apollo X16 OUTPUTS LINE7 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB3

Apollo X16 OUTPUTS LINE8 ⇒ スタジオ演奏者ヘッドフォン用SUB4

Apollo X16 OUTPUTS LINE9 ⇒ スタジオにあるOUT9端子(カメラ用音声L)

Apollo X16 OUTPUTS LINE10 ⇒ スタジオにあるOUT10端子(カメラ用音声R)

Apollo X16 OUTPUTS LINE11 ⇒ スタジオにあるOUT11端子(PA用ミキサーへ)

Apollo X16 OUTPUTS LINE12 ⇒ スタジオにあるOUT12端子(PA用ミキサーへ)

Apollo X16 OUTPUTS LINE13~16 ⇒ 未接続

先にパソコンを立ち上げてからオーディオインターフェースの電源をオンにする。



ConsoleアイコンをクリックしてConsoleを起動する。



① **SETTINGS** をクリック。



② **HARDWARE** をクリック。

③ **ALT COUNT** を **1** にする。

④ **CUE BUS COUNT** を **2** にする。

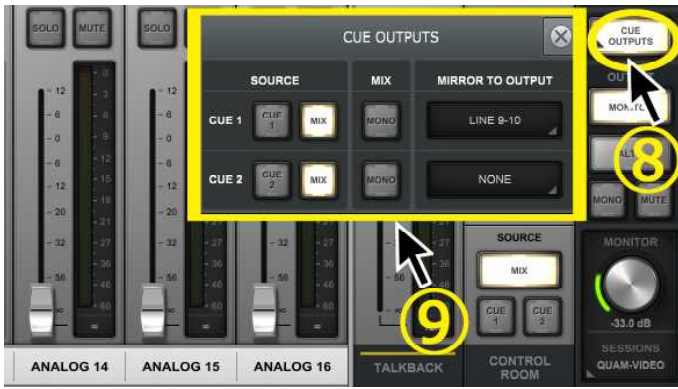
⑤ **SAMPLE RATE** を **48kHz** にする。

※当スタジオのGH5mk2標準設定の場合



⑥ **I/O MATRIX** をクリック。

⑦ **MODE** を **Default** にする。

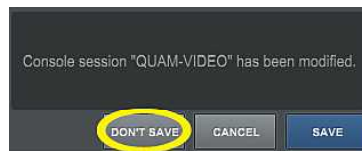


- ⑧ CUE OUTPUTS をクリック。
- ⑨ CUE 1 = SOURCE は MIX  
MIRROR TO OUTPUT は LINE 9-10  
(スタジオ OUT9 & OUT10 端子 → 動画撮影カメラの音声入力端子 L & R)  
CUE 2 = 使用しないので  
MIRROR TO OUTPUT は NONE

※これで **モニター** と **動画撮影用カメラ** へ同じモニター音が送られます。



- ⑩ SESSIONS をクリック。
- ⑪ QUAM-VIDEO を **ダブルクリック**。



左の表示が出た場合は **DON'T SAVE** を選ぶ



- ⑫ SENDS をクリック。
- ⑬ AUX1 ボタンをクリック点灯。  
※上の段のフェーダーがリバーブの量の調節。下の段のフェーダーがマイクプリに入力された信号の音量調節。
- ⑭ ANALOG の名前部分をクリックして名前を自由に変更(英語のみ)。

※当方で用意したのと別のリバーブ・コンプ・EQ などプラグインを使いたい方は Apollo の詳しい説明書を見てください。



- ⑮ モニターの切り替え  
MONITOR はスピーカーの音を聞く時。  
ALT1 はヘッドフォンで音を聞く時。

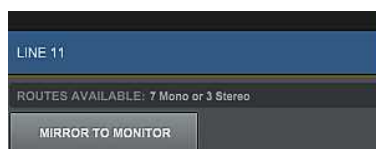
## [演奏者に対して動画撮影時にスタジオのスピーカーから音を出したい場合]

ボーカルやキーボードなど返しのスピーカーがないと演奏できない場合。スタジオへのOUTPUT端子は4つあり、そのうち9と10は動画カメラ用音声L&Rで使用します。残りのOUTPUT端子は11と12の2つです。ApolloのOUTPUT LINE 11とOUTPUT LINE12がその端子につながっています。



①⑥ OUTPUTをクリック。

①⑦ LINE11かLINE12を選択。



MIRROR TO MONITORボタンが灰色になっているとオフなので点灯(オレンジ色)させる。

※例えばボーカルやコーラスはLINE11に、キーボードはLINE12にすると、スタジオOUT11端子からボーカル・コーラス、スタジオOUT12端子からキーボード音が出力されるので、その端子とスタジオのミキサーをつないでスタジオのスピーカーから音を出します。

※MIRROR TO MONITORをオンにしておくとLINE11(スタジオOUT11)・LINE12(スタジオOUT12)とモニターの両方から音が出ます。

※MIRROR TO MONITORがオフになっているとLINE11(スタジオOUT11)・LINE12(スタジオOUT12)からだけ音が出てモニターからは音が出ません。すると、モニターに接続された動画カメラの音声にボーカル・コーラス・キーボードなどの音が収録されなくなってしまいます。